

環境安全ニュース

大阪大学環境安全研究管理センター

OCSS の稼動状況と部局別の登録状況

OCSS（大阪大学薬品管理支援システム）は、平成 18 年 1 月現在で、11 万件の薬品が登録され、運用されている。今回、平成 17 年の OCSS サーバ稼動状況と部局別の薬品登録状況についてまとめる。



OCSS には、平成 17 年の 1 年間に 6 件のハード面でのトラブルが発生した。3 月 22 日に T-db サーバが OS のトラブルによりアクセスできない状況になり、バックアップサーバを T-db として運用した（3/22～3/31）。T-db サーバは、5 月 11 日にメモリー交換、7 月 25 日にバックプレーン交換のため停止した。4 月 18 日には S1-web サーバのハードディスクが破損し、バックアップサーバを S1-web として運用した（4/18～4/26）。4 月 25 日に、サーバコンソール交換のため S2 サーバを停止した。9 月 29 日には、T-web サーバのマザーボードの交換を行った。

一方、サーバの再起動により解決したトラブルが 8 件発生している。S1 および S2 サーバがそれぞれ 3 度、T サーバが 2 度である。

上記以外の停止は 4 回で、7 月 1 日の環境安全研究管理センター内のネットワークトラブルによる 1 時間の停止、7 月 7 日の無停電電源装置アップデート作業によるすべてのサーバの停止、8 月 21 日の環境安全研究管理センター停電による停止、12 月 20、21 日のサーバ保守点検による停止である。その他、8 月 6 日に落雷による 1 分間ほどの停電があったが、無停電電源装置によりそのまま稼動した。

昨年は、サーバにすでに登録されている 10 社

の薬品マスタに加えて、2 月にメルクおよび渡辺化学工業、9 月にアプライドバイオシステムズの薬品マスタを追加した。薬品マスタは、13 社合計で 60 万 7 千件を超えている。また、12 月に主クライアント 39 台とサーバ 7 台にウィルス対策ソフトをインストールし、セキュリティー面の強化を行った。

昨年 1 年間に、全学で約 2 万本の薬品が新たに登録され、総数 11 万本を超えた。毒劇物に関しては、毒物約 2,297 本、劇物約 20,320 本が登録され、重量管理されている。各部局別の薬品登録状況とともに表 1 に示した。

昨年、OCSS は PRTR 法の仮集計や自治体からの有害物質使用調査などに利用された。現在、毒劇物と一部の PRTR 対象物質がシステムへの登録対象となっている。しかし、PRTR の集計では OCSS を用いた集計データと各研究室から報告された集計データに大きな隔たりがあった。これは、1 斗缶で購入されている対象物質の登録が不完全であったためと考えられる。今後、さらに薬品管理支援システムを有効に利用するために、危険物などの薬品の登録が望まれる。引き続き OCSS の適正な運用と対象物質の完全な登録にご協力をお願いいたします。

表1. 部局別登録状況

H18.1.5

サーバ	部局名	グループ ID	毒物本数	劇物本数	総試薬本数
S1	工学研究科	F	508	5,191	36,642
	情報科学研究科	G	1	24	173
	微生物病研究所	J	62	622	2,545
	産業科学研究所	K	151	1,449	8,620
	蛋白質研究所	L	84	810	2,988
	接合科学研究所	M	12	94	390
	レーザーエレクトロニクス研究センター	NA	19	269	1,434
	超高压電子顕微鏡センター	NB	3	18	148
	ラジオアイソトープ総合センター(吹田)	NC	0	12	22
	超電導フォトニクス研究センター	ND	0	15	39
	環境安全研究管理センター	NE	13	95	973
	生物工学国際交流センター	NF	1	123	595
	核物理研究センター	NK	1	6	38
	S1サーバ合計			855	8,728
S2	人間科学研究科	A	9	65	470
	医学系研究科	B	251	2,519	6,217
	医学系研究科保健学専攻	BY	6	66	316
	医学部附属病院	C	13	314	521
	歯学研究科(含附属病院)	D	55	614	2,731
	薬学研究科	E	468	2,606	17,818
	生命機能研究科	H	51	532	1,894
	先端科学イノベーションセンター	NG,NH,NJ	5	82	601
	S2サーバ合計			858	6,798
T	工作センター	UA	13	51	376
	ラジオアイソトープ総合センター(豊中)	UB	0	14	14
	極限科学研究センター	UC	0	6	40
	太陽エネルギー化学研究センター	UD	20	293	1,223
	総合学術博物館	UE	0	0	0
	医学系研究科	V	0	0	0
	生命機能研究科	W	グループID未登録		
	情報科学研究科	X	グループID未登録		
	基礎工学研究科	Y	131	1,645	14,548
	理学研究科	Z	420	2,785	10,370
	Tサーバ合計			584	4,794
3サーバ総計			2,297	20,320	111,746

最近の排水水質分析結果について

今回は平成17年8月から11月の排水検査結果より、主な項目について示した。

吹田地区では、最終排水口において基準値を超えた項目はなかった。ジクロロメタンが10月に定量下限程度程度の濃度で検出された(図2)。それ以外の項目は、良好であった。

10月に行われた採水地点別の分析では、No.1地点で1,1-ジクロロエチレンが0.04 mg/lの濃度で検出された(図4)。また、No.2地点で鉄5.0 mg/l、No.3地点でジクロロメタン0.01 mg/lの濃度で検出された。検出された項目は、すべて基準値以下の値である。

豊中地区では、排水は大学教育実践センター側と理学・基礎工学研究科側の2つの系統に分かれて公共下水道に排出される。9月に大学教育実践センター側と理学・基礎工学研究科側において、鉛がそれぞれ0.01と0.013 mg/lの濃度で検出された(図1)。それ以外の項目は良好で、頻繁に基準値前後の値が検出されるn-ヘキサン抽出物質も7 mg/l以下であった(図3)。

毎年、年末から年度末の研究活動が活発化する時期に、高濃度の有害化学物質が検出されるため、今後も、環境中に有害物質を排出しないよう皆様の適切な処置・処理をお願いします。

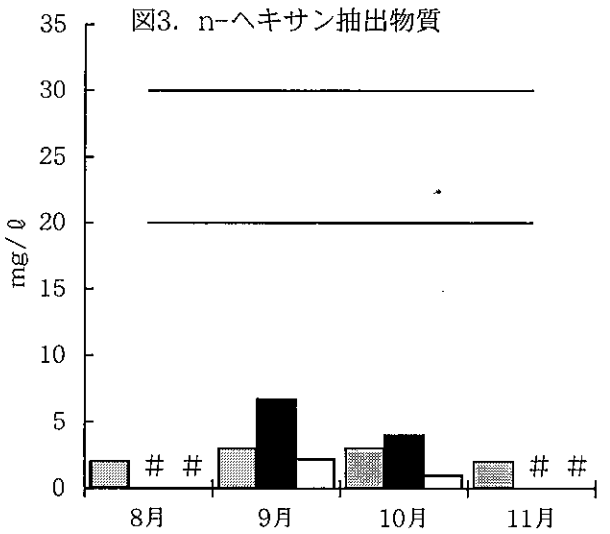
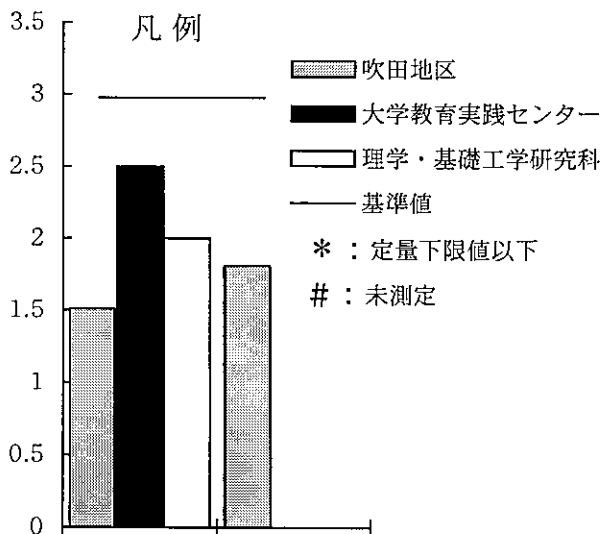
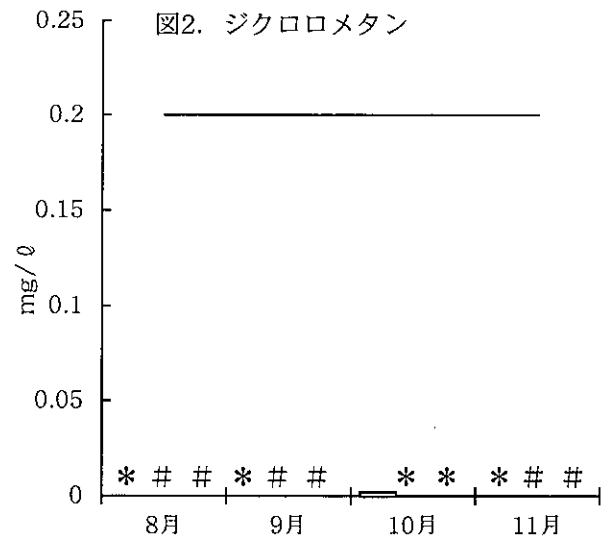
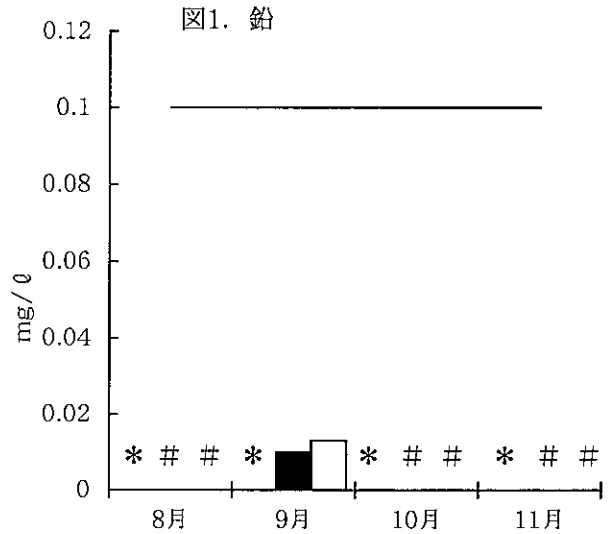


図4. 吹田地区排水系統と要注意項目 (平成17年10月12, 13日自主検査)

